

静岡

伊豆半島は、西の駿河湾、東の相模灘、南の太平洋と三方を海に囲まれて、変化に富む美しい海岸線が続き、海水浴やダイビング、シュノーケリング、サーフィンなどのマリンスポーツが盛んに行われている。

中でもダイビングは、国内では最大のダイビングエリアである沖縄本島・離島と比べても遜色のないほどのダイビング資源に恵まれている。半島の南には黒潮が流れており、抜群の透明度を誇る。伊豆の海には四季があり、季節ごとに異なる表情を見せてくれる。魚種の多さ、魚影の濃さは国内屈指で、海流に乗ってくる南の海の大型魚から、北の海の魚、深海魚、ウミウシの群生など、多様な海洋生物がみられることでも知られている。

この自然豊かな伊豆半島にはダイビングに適した海域、いわゆるダイビングスポットが半島をぐるりと囲

むように存在している。東海岸には日本のレジャーダイビングの発祥の地ともいわれる伊豆海洋公園（伊東市）、西海岸には伊豆を代表するダイビングスポットの大瀬崎（沼津市）があり、1990年代半ばのダイビングブームには全国から多くのダイバーを集めてきた。ほかにも、大型の沈船が見られる熱海（熱海市）や大室山の溶岩が造り出した複雑な地形が魅力の富戸（伊東市）、ハンマーヘッドシャークの大群がみられる神子元島（南伊豆町）、洞窟やアーチ、クレバスなど半島屈指のダイナミックな地形が有名な雲見（松崎町）など、30を上回るダイビングスポットがある。しかもそのほとんどのスポットでは海岸線から海に入ることができる。海はすぐに深くなり、潜る場所が近いことから初心者からベテランまでゆったりとダイビングを楽しむことができる。これは沖縄本島・離島がサンゴ礁に囲まれていて遠浅の海辺が続くために、遠くの沖合までボートで出て行って海に入る必要があるのとは大きく異なる。

伊豆半島は、首都圏に住むダイバーには交通の利便性が高いことも魅力で、日帰り客や毎週末のリピーター客も多い。首都圏周辺には房総半島や湘南・三浦海岸などのダイビングエリアがあるが、交通利便性に加え、伊豆半島の海の方が温かく、透明度が高く、海中の地形や魚種が豊富であるなど、恵まれた自然の豊かさが、多くのダイバーを惹きつける大きな魅力となっている。しかも半島の中央部には千メートルを超える天城連山があることで三方の海は風向きや海況が異なる。東海岸が荒れていれば西海岸へ、南がダメなら北の海へと、伊豆半島の中で天候や海況によって潜るのに適した海を選ぶことができる。

しかし、一般の観光客にとっては沖縄本島・離島や海外のダイビングスポットと比べると伊豆半島はまだ認知度は高くはない。この4月には伊豆半島ジオパークはユネスコから世界ジオパークに認定された。このジオ（大地）がもたらす自然の造形は地上だけでなく、海の中にも広がっている。海面の下にはダイナミックな地形が広がり、多くの海洋生物が棲んでいる。ユネスコの認定を機に伊豆半島のダイビングの魅力が広く知られて、より多くの人々がダイビングに訪れることが期待されている。

伊豆はダイビングスポットの宝庫



(写真提供:伊豆海洋公園)

伊豆の海中には豊かな自然が広がっている